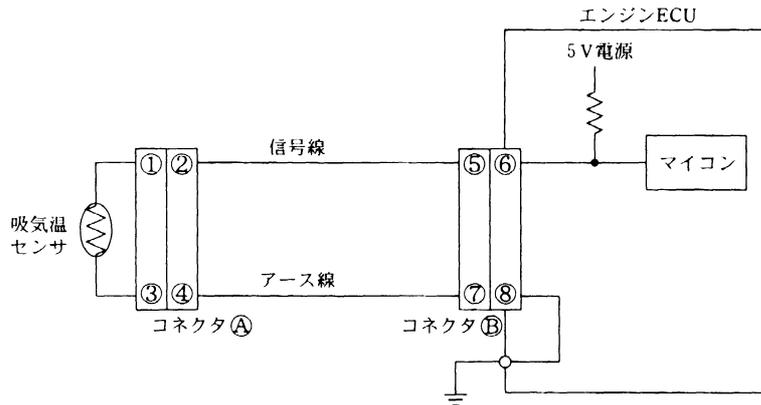


平成15年12月 検定試験

[No.39] 警告灯が点灯し、吸気温センサ系統の異常を示すダイアグノーシス・コードを表示したので外部診断器を使用して図及び表をもとに故障診断を行った。このときの診断結果として、**不適切なもの**は次のうちどれか。

図



表

状態	信号端子電圧	エンジンECUデータ
信号線断線	5V	-40℃
信号線アース短絡	0V	140℃

- (1) 外部診断器に表示された吸気温度が『140℃』で、コネクタ A を外したとき、吸気温度表示が『-40℃』に変化したので、吸気温センサの短絡である。
- (2) 外部診断器に表示された吸気温度が『140℃』で、コネクタ A を外したとき、吸気温度表示が変化せず、コネクタ B を外したとき、吸気温度表示が『-40℃』に変化したので、端子②と端子⑤間の信号線の短絡である。
- (3) 外部診断器に表示された吸気温度が『-40℃』で、コネクタ A を外し、端子②と端子④を短絡させた場合、吸気温度表示が『140℃』に変化したので、端子②及び端子④からエンジン ECU までは正常であり、コネクタ A の接続不良を含め吸気温センサ側に断線がある。
- (4) 外部診断器に表示された吸気温度が『-40℃』で、コネクタ A を外し、端子②と端子④を短絡させた場合、吸気温度表示が変化せず、端子⑤と端子⑦を短絡させたとき、吸気温度表示が『140℃』に変化したので、エンジン ECU 側は正常であり、吸気温センサに断線がある。